令和６年度《楽しむ読書活動から味わう読書活動へ「味読のすゝめ」》

読書活動への扉を開く！

Ｎｏ．R6-6　　桑村小学校　令和６年６月２５日　文責：関口　直

読み聞かせが行われています!

マルベリーの方々による読み聞かせが行われています。６月１３日（木）に行われた読み聞かせでは、ちょっと怖い「みがいてあげる」やとてもユニークな「あっ、ひっかかった」など、さすが、みなさんとても本選びを工夫されていました。読み聞かせの後の反省会では、お互いに本の紹介をしました。この反省会での情報共有がとてもいい時間で、自分もまるで子どもたちのように聞き入ってしまいました。

教員による読み聞かせバイキングも行われました。これは、それぞれの先生方が各学年の子どもたちに読み聞かせをする取り組みです。校長は、２年生には「からすのたまごにいちゃん」、５年生には「はいけい　たべちゃうぞ」の読み聞かせをしました。「からすのたまごにいちゃん」は函南町図書館で多く貸し出されている絵本として紹介されていました。いつまでもからに閉じこもって甘えているからすのお話です。２年生に自立を促す願いも込めて選びました。「はいけい　たべちゃうぞ」は、ちょっと謎解きもあるお話で、絵もそうですが、本の世界に入り込むとドキドキ感を味わえるお話で、まさに味読を促したい５年生向けということで選びました。

読み聞かせを行う意味とは何でしょうか？調べてみるといくつかその良さがあることがわかります。①物語を理解するなかで想像力が育つ。②さまざまな単語を知り言語力が高まる。③夢中になっているうちに集中力が上がる。まさに想像力、言語力、集中力は今大事にされている力です。そして何より本校が重点としている感性を育むことにつながります。また、家庭での読み聞かせにより親子のコミュニケーションで心が豊かになるとの効果も載っていました。いいことずくめの読み聞かせ。これからも多くの人たちの力を借りながら盛んにしていきたいと考えています。